

最優秀賞

高橋 達也(宮城県東松島市)

『てっかいなあ!!』



一昨年から、年末年始の期間ボランティアの方々が、東松島の復興と地域住民の幸せを願って野蒜海岸に干支のオブジェを製作されます。大震災から10数年を経ても、街の発展に心を寄せてくださるボランティアに感謝します。(撮影:宮城県東松島市/令和7年1月1日)

優秀賞

柏館 健(福島県いわき市)

『弔いと復興を願って』



南相馬市では、夜空にサーチライトを照らし、大震災の死者を弔い、復興を願うイベントを開いています。この日は精霊の木と名付けられた木がある畑で行われ、参加者は祈りを込めて、見学しておりました。(撮影:福島県南相馬市/令和6年12月22日)

佳作

門林 美津江(福島県いわき市)

『いわきフラインジテイ』



いよいよ夏!いわき市薄磯海岸で海開きが開催されました。まだ放射能問題がくすぶる福島ですが、浜通りの海岸は安全に泳げます。素敵なコバルトブルーの海へぜひともお越しください。(撮影:福島県いわき市/令和7年7月19日)

柏館 光子(福島県いわき市)

『歓喜の子供御輿』



夜の森の桜並木で、さくら祭りが再開され、この年から子供神輿も復活したようでした。先導する大人の方やみこしを担ぐ子供たちの歓喜の姿に感動し、富岡町の明るい未来を感じました。(撮影:福島県富岡町/令和7年4月5日)

西山 栄(福島県いわき市)

『防護服が見守る』



宝鏡寺・伝言館は東日本大震災による原発事故の悲惨を後世に伝えていこうと住職の早川さんが寺境内に作ったものです。内部は原子力発電所にかかわる多くの資料が展示され、賛否の枠を超えて発信されています。(撮影:福島県楳葉町/令和7年3月16日)

佐々木 均(宮城県多賀城市)

『最盛期のへそ大根』



南 澄恵(兵庫県神戸市)

『本松への道』



東日本大震災津波伝承館で津波被害の悲惨さを目にした後に、奇跡の本松への高い堤防の道を辿りました。よくぞ流されずに残ったものだと思います。この強さを力に早い復興を心より願います。(撮影:岩手県陸前高田市/令和7年5月25日)

岸 浩子(岩手県陸前高田市)

『シンボルロードにハナミズキ咲きて』



5月の光の中で美しく咲き始めたハナミズキのシンボルロード歩いてみました。いつもは車で通る道、小さな発見がありました。広々とした避難道路は、BRTが走り、その先は高台に移転した県立高田病院がありました。(撮影:岩手県陸前高田市/令和7年5月1日)

丹治 郁夫(宮城県富谷市)

『海を見つめて』



3月11日昼下がり、荒浜海岸には慰霊に訪れた老若男女が嵩上げされた防潮堤に集まっています。浜辺には二人の女の子が穏やかな海と遠く大型船を眺めていました。いつまでも穏やかな日常が続きますように…!(撮影:宮城県仙台市/令和7年3月11日)

門林 泰志郎(福島県いわき市)

『浪江、復興へのあかし』



今年も歴史ある伝統の安波祭が、浪江町請戸にある草堂神社で開かれました。まだ浪江町から避難されている皆様が、この日のために集まって練習をし、新しくなった草堂神社で田植え踊りを奉納したのです。皆様、お疲れさまでした。ありがとうございます。(撮影:福島県浪江町/令和7年2月16日)

藤島 純七(宮城県仙台市)

『海の安全を願って』



塩釜市や松島湾の島々は東日本大震災で被災しました。毎年7月の海の日には約100艘もの飾りたてた御供船を従えて塩釜港を出て、松島湾内を巡行し、海の安全を祈願しています。(撮影:宮城県塩釜市/令和6年7月15日)

小曾根 蒼(埼玉県和光市)

『海を駆ければ』



防波堤は、安全のために私たちと海を切り離す。だけど堤防の上を走ってるとき、「海と繋がれそう」と思った。震災を覚えていない18歳の私からだいたいばいに吹き付ける潮風と、絶え間ない波の音が忘れられない。(撮影:福島県双葉町/令和7年9月15日)

青柳 健二(写真家)



最優秀賞を受賞した「てっかいなあ!!」。子どもが見上げるのは野蒜海岸の干支(2025年は巳)のオブジェ。これはボランティアが造ってくれたそう。震災から十数年経つても気がかけてくれているボランティアの気持ちや地元の人たちの心の支えになっていることがコメントから伝わった。優秀賞の「弔いと復興を願って」は、南相馬市のライトアップされた「聖霊の木」と名付けられた柿の木。「奇跡の本松」もそうだが、大地に立つ二本の木には人の姿を重ね合わせて見えてしまう。ライトアップして輝かせる応援歌にも見えてくる。優秀賞の「海猫ばくだん」は無嶋神社の写真。傘で海猫の「フン」を避けることはできても、臭いは避けられない。それでも、危険を冒してまで参拝する人の多さにちょっとおかしみも感じさせる写真だ。

渡辺 祥子(フリーアナウンサー、情報誌「りらく」編集長)



審査員を務めるようになって3年。「今年はどうな出会いがあるだろう」と楽しみに会場に向かった。テーブルに並べられた写真の数々。かつて訪れたところのある場所や催しも、撮影者の視点で切り取られると別の様相を呈す。それはあたたかみも初めての出会いのよう。そして写真に添えられた言葉をじっくりと読む。すると撮影者の思いとともに、様々な人々の人生が浮き上がってくる。あの日から15年。そこに暮らす人、そこを訪れる人それぞれの、決して被災地とか被災者など一言ではくれない唯一無一の人生があることに改めて思いを馳せることが出来た。東北お遍路写真コンテストは、新たな東北との出会いをもたらす大切な場だと感じる。応募者の皆さんに感謝したい。

＜第11回東北お遍路写真コンテスト作品募集！＞

- 募集テーマ:風景・人物・祭りなど、東北お遍路に因む写真
- 応募方法:写真は2Lサイズのプリントで、コメント(100字以内)と一緒に送ってください。写真とコメントで審査します。合成写真は控えください。
- 応募期間:2026年11月30日(消印有効)
- ▶作品の送り先:〒976-0022 福島県相馬市尾浜字南ノ入 241-3 東北お遍路写真コンテスト係

寒気流れる1月の丸森町筆甫地区、朝早くからへそ大根朝りに精を出していました。(撮影:宮城県丸森町/令和7年1月18日)

市川 清一(青森県八戸市) 『海猫ばくだん』

蕪嶋神社は八戸を代表するパワースポットです。海猫の繁殖地として天然記念物に指定されています。一番の目玉は海猫の糞の落下「ばくだん」です。それを避けるため、傘は必需品。このスリル満点の参拝は大人気です。(撮影:青森県八戸市/令和6年5月5日)

